

2020/01/12

「二種類のクリスチャン」

アメリカで開拓伝道をはじめたばかりの牧師が、生活費の困窮にあえいで祈っていた時、一通の手紙が届きました。それは、「神様に示されたので、先生のために献金します。」と書かれた手紙で、牧師が祈っていた通りの金額が示されていました。これを見た彼は、「神は必要を満たしてくれた！」と狂喜し、妻も呼んで喜び合いましたが、時間がたつにつれて少しずつ彼の心はしぼんでいきました。それは、「自分は人の約束に小躍りして喜んでいるが、神の約束をこれほどまでに喜んだことがあるだろうか」という思いが沸き起こってきたからです。

彼は、聖書にある多くの神の約束を知りながら、神のことばよりも人のことばを優先して喜ぶ自分の傲慢さに気づき、御言葉を中心に、御言葉によってクリスチャンを養うことの大切さを神に教えられました。

これは、一時全米で最大の教会にまで成長したカルバリー・チャペルのチャック・スミス先生の証しです。

■肉に属するクリスチャン・御霊に属するクリスチャン

「さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するように話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。ある人が、「私はパウロにつく。」と言えば、別の人は、「私はアポロに。」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。」(I コリント 3:1-4)

クリスチャンは大きく分けて2つのタイプに分けられます。それは、肉に属するクリスチャンと御霊に属するクリスチャンです。

肉に属するクリスチャンは、人から慰めを受けることを求めます。「乳」とは、人によって与えられる慰めのことです。これに対して、御霊に属するクリスチャンは、神のことばを求めます。「堅い食物」とは神のことばのことで、神は、私たちが皆神のことばを食べられるようになることを願っておられます。

聖書は、ねたみや争いを持っているクリスチャンは、肉に属していると教えています。なぜなら、ねたみや争いが起きるのは、人から良く思われようとするからです。つまり、心が人に向いているのです。御霊に属するクリスチャンとは、神に心を向けるクリスチャンのこ

とです。

肉に属するクリスチャンは、何か問題にぶつかってつらくなると、さばくという行動に出ます。「自分は悪くない。〇〇が悪い。」としか思いません。しかし、神のことばを食べて生きようとする人は、問題にぶつかってつらくなると、その罪を神の前に言い表します。人を愛せない、妬む、人と争うという罪を罪として認め、さばくことはせず、神の前に罪を告白して処理するのです。神が「さばくな」と繰り返し教えているのは、私たちが御霊に属するクリスチャンに成長するためです。

私たちは、誰もが最初は肉に属するクリスチャンです。成長し、神のことばを食べられるようになって、決して不安がなくなるわけではありません。ねたみや争いがなくなるわけではありません。ただ処理の仕方が変わります。御霊に属するクリスチャンに成長するには、つらさを感じた時、誰かをさばいて解決しようとするのではなく、その罪を神の前に言い表して、御霊に属する人になることを目指せばよいのです。

■平安を受け取りなさい

「ですから、私たちは、この安息にはいるよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。……ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

(へブル 4:11-13, 16)

聖書の全編にわたるテーマは、私たちに安息を得させることです。それは、この世界では誰もが不安の中で生きているからです。すべての人がかかっている「不安」という病気を癒し、平安を得させたいと、神は願っておられるのです。それを聖書は「平安の義の実を結ぶ」とも言っています。

そのために必要なことは、問題を表に出すことです。そのために神のことばはあるのです。神のことばによって罪を明らかにし、治療を受けましょう。神のことばによって病気が明らかになっても、癒されなければ意味がありません。

神のことばはあなたの問題を指摘し、あなたをキリストに導きます。神はあなたを憐れんで助けてくださる神です。これが福音の基本です。

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」

(へブル 4:15)

もし本当の平安を手にしたいなら、人のことばによって慰められようとするのではなく、自分の問題点を表に出して、治療を受けましょう。人のことばによって得られる喜びは一時的なものです。聖書がすべての人を罪の下に閉じ込めたのは、すべての人が神のもとに導かれてまことの平安を受け取れるようにするためです。神のことばによって、憐れんでくださる神イエス・キリストに導かれるなら、誰もが必ず平安に生きられるようになります。

■神のことばを誤って食べる危険性

病気の治療に用いる薬は、間違った処方をするとかえって毒になるものもあります。同様に、神のことばには力があるということは、誤って食べるととんでもない事態を招きます。

たとえば、「一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わったうえで、しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。」（ヘブル 6:4-6）という御言葉を「救われても神から離れると救いが取り消されてしまうのだ。」と誤解してしまうと、「私はどうせダメなクリスチャンだ」と落ち込んだり、「あいつはもうダメなクリスチャンだ」とさばいたりして、平安を得るところか、ますます不安に陥ってしまいます。聖書の言葉は、いのちを与えて神のもとに導く素晴らしいものですが、正しく食べなければ、かえって自分を苦しめるものになってしまうのです。偏見や誤った解釈によって食べ方を間違えると、かえって人を神から遠ざけるものにもなる危険があるのです。

この聖書箇所が教えようとしていることは、「救われた者が墮落して、救いを捨ててイエスを否定することなど不可能だ。」ということです。たとえどんなに罪深い生活をしていても、私達の中に神がいて永遠のいのちを手に行っているからです。イエス・キリストは、「救いは取り消されることはない」ことと「行いに関係なく救われる」ことを、はっきり教えておられます。さきほどの御言葉の続きにも、次のようにあります。

「そこで、神は約束の相続者たちに、ご計画の変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されたのです。それは、変えることのできない二つの事がらによって、——神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません。——前に置かれている望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けられるためです。この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。」（ヘブル 6:17-19）

神の救いの計画は変わることはなく、神はそれをはっきりと保証しておられます。とどまっている場所から離れないために船が錨をおろすように、神のことばによる救いの確信を錨としておろすなら、少しぐらい動かされることがあってもそこから離れることはできません。つまり、「あなたが神から離れるなどあり得ないことで、神と一緒に生きる道しかないのだから、後ろを見て悔やんでも仕方ない。前を見るしかない。」と、神はあなたを励ましておられるのです。

「ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。」（ヘブル 6:1）

これが、ヘブル人への手紙6章の冒頭です。「一度救われたら後戻りはできないのだから、神のことばで生きるしかない。あなたはなぜ人のことばで生きようとするのか。」というテーマに沿って書かれた手紙なのです。

神のことばは効き目のあるものですから、間違っていると劇薬になってしまうこともあるので、慎重に用いる必要があります。そのため神は、クリスチャンが御言葉を誤った用い方をして自分を苦しめることがないように、教会と指導者を用意しておられるのです。

■肉のクリスチャンから神のことばを食べるクリスチャンに軌道修正するには

もしスケート選手が金メダルを取りたいと思ったら、様々な人たちのことばに気を遣って練習すべきか、一人のコーチのことばに従うべきか、どちらでしょうか。あるいは、もし病気を治したいと思ったら、いろいろな人たちのことばに耳を傾けてみんなに気を遣うべきか、医者のことばに聞き従うべきか、どちらが良いでしょうか。

金メダルを取る可能性が高いのは一人のコーチに従うことであり、病気が治る可能性が高いのは医者のことばに従うことです。中には「間違ったことを言っているかもしれないから従わない」という人がいるかもしれませんが、自分の判断に従うのも、専門家の判断を仰ぐのも、どちらもその危険が伴います。ましてや、神のことばを食べるには専門家の判断はどうしても欠かせません。

「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」（ヘブル 5:12-14）

神のことばは奥深く本当に素晴らしいもので、よく学び経験を積むことによって、より正しく理解し真理を悟ることができます。すべてのクリスチャンは、神のことばを食べることが必要ですが、ただ食べるだけでなく、正しく食べることが重要です。そうすれば安息に至ります。

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。善を行なうことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ば

れるからです。あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動しようとして願っているからです。また、もっと祈ってくださるよう特にお願ひします。それだけ、私があなたがたのところに早く帰れるようになるからです。」（ヘブル 13:15-19）

神のことばを食べる第一歩は賛美、すなわち神への感謝です。そして、聞くだけではなく実行することが大切です。みことばを実行しなければ、自分は神に向いているのか、自分の本当の姿も自分の中にある問題も見えてきません。次に、みことばの専門家である指導者の言うことを聞きましょう。「自分は神から直接教えを受けるから、指導者のことばには従わない」という人は成長しません。なぜ神が教会を建て、指導者を立て、一致を保つように命じているのかを考えましょう。

また、指導者のために祈ることも重要です。指導者は、信徒がさらに豊かにみことばを食べることができるように、全身全霊をかけて堅くて難しい御言葉と日々格闘しています。しかし、それでも間違った判断になることもあるのです。ですから、指導者のために祈るよう教えられているのです。神のことばに従ってキリストに結びつき、まことの安息を手にして生きましょう。